

国の地方支分部局（出先機関）の見直しについての
政府委員会と全国知事会との意見交換を踏まえて記者会見概要

日 時 平成20年7月25日（金）16：03～16：27

場 所 都道府県会館6階 全国知事会知事室

出席者 麻生全国知事会会長

中川全国知事会事務総長

（事務局）

ただいまから、地方分権改革に関する動向についての麻生知事会長の記者会見を始めさせていただきます。（本日の配付資料は、本日の会議に提出した提言の概略です。）

それでは、麻生全国知事会会長からお願いいたします。

（麻生全国知事会会長）

・（概況説明）

< 質疑応答 >

（記者）

今日の西尾委員の質問に対して会長説明されましたけれど、政府の推進本部とそれから委員会に対してどうしようもないときは要望するとの話だが、要望とは具体的にはどのようなタイミングで、具体的にどういうことを要望するのか。

（麻生全国知事会会長）

タイミングは、モデル的な検討をすることに今なりつつあるから、モデル的に河川を取り上げて、どういう費用が掛かっているのか、どういう中身の費用か、あるいはそれにたいして技術的な人材がどういう配置されているのかを検討することになるのではないかと思う。結局最後この費用はどうするのかということになってくるが、それが依然として国交省の問題ではありません、という事であれば、もう一度原点に返って、政府の方針を決めたのは地方分権改革推進本部だから、本部長である総理大臣宛に「この点をもっと明確にしてもらいたい、財源と権限とパッケージでないと進めようがないから包括的な財源問題を切り離しても明確な形にってもらいたいんだ」というようなことを主張しないといけないだろうと思っている。

（記者）

財源や人について、具体的にどのようにそうしてくれるんだということまで具体的に

言って下さいというような要請・・

(麻生全国知事会会長)

そう。そのような「将来地方財源充実というということで考えますから」ということでは困る。というのは、第3次勧告の場合は、2つの側面が考えられる。

一つは、個別具体的な権限移譲が今議論されているが、具体的な権限移譲に伴ってそれに必要なお金をどうするのかという問題

もう一つは、地方では一般的な地方財源は無くなってしまっている。地方自治とか分権とか言いながらその活動はできなくなってしまっている。と言うような意味を含めての地方財源の充実あるいは5:5にしていく具体的な方法というような大きなフレームワークでの財源論。2つやらないといけない。

2つとも全部先送りしたのでは個別の権限移譲は進まないということ。

我々はこの個別の権限移譲に伴う財源は具体的にどうするのかと本部として考え方を確立してもらおうと求めなければいけない。

(記者)

人員についても同じか。

(麻生全国知事会会長)

同じことに考え方はなっていくと考えている。

(中川全国知事会事務総長)

国交省も人は移さないとは一回も言ったことはない。移すのはごく当たり前と思っ
ていると思う。お金よりは、自分の所の人事をどうするのかといったことには、国交省も
考えるでしょうから。

(麻生全国知事会会長)

国交省も、権限は渡すけれど金は全然渡さないというのはおかしい話。ちゃんと(費用が)かかっているから。

(記者)

今日の午前中の協議でも、モデルケースについて話をするという方向になったが、個別の話をするにしても、いくら事業費がかかっているかは言える。しかしその財源をどうするかについてやっぱり言えませんが、今日の午前中も国交省側が言っていた。

だとすると、モデルケースで検討しても結局結論一緒で(はないか)。

(麻生全国知事会会長)

そこは、ご指摘のとおり。結局は元の所に落ちて、金の話はやっぱり政府全体の話ですとか、3次答申だという可能性高い。

モデルケースでやることによって、現実には河川を移管するについては、どのような種類のお金が、人件費も含めて、どの程度掛かっているのかが明確になる。

政府なりに持って行って、こういうことだから個別的な税源移譲を明らかにしなければいけないとの我々の主張の一つの大きな説得的な根拠となる。

抽象的に、「税源移譲せねばならない、財源を一緒に移してもらわねば困る」というのと、「経費歳出もこれだけ掛かっている」というのは、「これはいつどうなるか分からない」というのではやれないとの我々の主張の根拠を、よりわからしむことにする可能性はある。

ご指摘のように、分かった場合でも、国土交通省が「それだけのお金をこの格好で用意します」ということは、多分言わないだろう。国交省なんかは政府全体の財源問題との中で考えるという大原則あるんだと言っているから。そこを打ち破るように我々せざるを得ない。

(記者)

山田知事も先日の横浜の全国知事会議でも言っていたが、国交省の協議以外に、財務省とも今後必要になるのであれば協議していききたいとの話であった。今日の午前中の協議でも、現時点では限界とは言えないのだと思うが、国交省との協議が限界となった場合には、これだけのお金が必要だが具体例として不足することが、見えてきたとしても、最終的な財源の問題になると、財務省が相手であったり、何らかの政府の具体的なところとの協議が必要になってくるのではないか。これから先、現時点では国交省との協議であるが、政府に求めた時点、これから先の話として、必要になる協議とは具体的なイメージとして、どういうイメージを持っているのか。

(麻生全国知事会会長)

中心は、なんと言っても政府の分権改革推進本部、形式から言うと総理大臣。そういつもやれないとなれば、実際は分権担当大臣である総務大臣とやる。それとやって、本部長や、その下である、分権改革担当大臣が政府部内を取りまとめないといけない。財務省へ行ったり農水省へ行ったりは、なかなかやれない。

最後には、包括的にそういうことになってくると思う。あるいは、今回のように本部との包括的な話し合いの他に、個別ケースについてはどうしても話し合いが必要な場合には併用する場合もあり得る。基本は本部だろう。

我々の今の知事会活動は二正面作戦やらねばならない。

1次地方分権改革は分権と言うことで権限委任・移譲、それに伴う財源問題を中心に

やっていた。今回の知事会は端的に現している。1つの大きな第2期分権改革のテーマは権限委任、移譲の課題が中心。どうしてもその後地方は非常に窮乏しており、一般財源もない状況になった。

もう1つの大きな正面は財政問題、財政再建問題。2つの前線、2正面作戦をやっていかねばならない。前者もそうだが後者が日本の国家的危機の反映。地方も交付税をどんどん切られている。地方でどうやって行政サービスを維持するのか、或いは切っていくのか。地方としての財政再建はもう1つの戦線として立てていかねばならない。そういう意味で知事会は変質したのではない。戦線を2つ張らざるをえないから。地方分権、権限寄せ一本槍では、現実の課題に対応できなくなっている。

目標が変わってきた。

(記者)

2回目の日程はまだ入っていないとのことだが。国交省は今日1回で終わらせたかったと思うのだが。

(麻生全国知事会会長)

そうはさせない。国交省は何回やっても地方がぐずぐずして進まないと言いたいのだろう。それを我々はなぜそうかというのを、天下に明確につまびらかにしたい。

(記者)

モデルケースの作業のどれくらい時間かかるのか。

(麻生全国知事会会長)

次の答申で具体化することから、そうしたらやれない。

(記者)

政府や委員会に対して要望するという、最後の切り札をきるのは。

(麻生全国知事会会長)

あまり長くするべきではない。まあ、山田委員長がどうしきっていくかもある。

(記者)

モデルケースの話の前であるが、国交省は8月中には個別の協議に入りたいとしているが。

(麻生全国知事会会長)

個別の協議には入りません。知事会で個別協議の前に包括的な協議をしようとなっている。

(記者)

国交省の見方としては、8月中というのが、次の第2次勧告に向けた議論に進めなければならないとの認識を持っていたようだが、会長としては、8月までにモデルケースの検討についてなんらかの基準のようなもの、結論を出さなければならないとの認識なのか。

(麻生全国知事会会長)

それは、山田知事と打ち合わせしないとタイムテーブルについて結論は出せない。

(記者)

今日の委員会で権限と財源と人はセットでないといけないと話をされていたが、今日はその要望ではないですね。

(麻生全国知事会会長)

今日は状況報告。一生懸命やっていますよと。しかし、出発点のところは土俵にのっていないと報告した。我々の立場は、財源と権限は一体でないといけない。将来財源は考えましょうというのでは、具体的にこの河川をどうしましょうということはセットできない。

(記者)

モデルケースを検討しても、国交省が財源を示さない場合に、改めて政府と委員会に示せというのは、内容としては同じようなことを聞くのか。

(麻生全国知事会会長)

基本は同じ。表現の仕方は多少違うと思うが。

(記者)

(総合的な出先機関の設置に関し、)おばけのような機関を作らないでくれというのは誰の表現か。だれに言ったものか。

(麻生全国知事会会長)

丹羽委員長の表現。

(記者)

丹羽委員長は誰に向かって言ったのか。

(麻生全国知事会会長)

わたしに対する返事。変な大きな機関は却って問題だと言った。それに対して、要するにおばけみたいな変な総合機関を作るなということですねと。

(記者)

国交省とだいが意見の開きがあると思うが、例えば意見が詰まらないまま、結局最後に知事会長と大臣がやるという可能性はないのか。

(麻生全国知事会会長)

それはどうでしょう。そっちの方法がいいのか。所詮、国土交通大臣はお役人の言うことをよく聞かれるから、なかなかうまくいかないのでは。筋論としては、本部。本部に行く前に知事会長と大臣と話をした方がいいという判断があれば、できればやる。

- 以上 -